

# 「日射取得を有効活用すべき」 無暖冷房住宅研究会が例会開催



ヨーロッパの現状を解説する藤城英明社長

北海道無暖冷房住宅研究会（繪内正道会長）は12月11日に札幌市内で12月例会を開催した。藤城建設（札幌市）の藤城英明社長が「パッシブハウス義務化

を控えるヨーロッパの現状」と題して講演した。世界の太陽光パネルの3分の1が設置されているドイツではCO<sub>2</sub>削減のために太陽光パネルの増設を進めたが、日中のみの電力供給のため夕方から夜にかけての電力需要に追い付いていない。藤城氏は「今までと同量の発電量が必要で結果的にCO<sub>2</sub>は減っていないのが現状」と話した。ヨーロッパでは環境保護のため、豊富な森林資源を活かした循環型社会を形成するために木造建築が盛んになっている。

ドイツや北欧では日射が少ないため、外から入ってくる熱量を逃さない住宅を前提に建てられている。藤城氏は「日本でも300mm断熱などの高断熱住宅や、ドイツのパッシブハウスなどの考え方が出てくるのは必然」と述べた。窓からの日射取得の必要性について、「住宅性能を上げれば暖かい家ができるというのは間違い。窓から日射を取り入れることが断熱材を厚くすることよりも有効ではないか」と指摘した。第二部では「高断熱住宅におけるヒートポンプ温水器の活用、及び床暖房と床冷房に関する実験経過の報告」と題し、同研究会のS・M・タギ副会長が講演した。